

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 - )

事業所番号	O670400738		
法人名	株式会社 三友医療		
事業所名	さんゆうグループホームふいりあ		
所在地	米沢市万世町桑山4660番地		
自己評価作成日	平成29年11月18日	開設年月日	平成15年4月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝ラジオ体操・リハビリ体操を行い、大好きな歌を歌っています。出来る方には、洗濯物干しやたたみ方、食器拭き等家事を行って頂いています。月に2回外出や外食をし、季節を感じて頂けるようにしています。イベントには、ご家族様をお呼びして、手作りのお弁当やボランティアの余興を楽しんでいます。食事は季節の食材等を使用したり、御利用者さまには好評ですが、いかに美味しい料理を食べて頂く日々検討しています。レクでは、壁飾りを作成したりカルタや風船バレー、ゲーム等を楽しんでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「自由で楽しくゆっくりと笑顔の中で地域と共に」を掲げ一人ひとりのペースを大事にしながら皆が和気あいあいと家族の様に暮らしています。男一人だから皆を守ろうと率先して手伝いをする方や食事の準備や片づけで生活歴を活かしている方などがおり、職員はできる事をやってもらい現在持てる力を維持しながらその人らしい生活の支援を行っています。また食事には旬の食材を用いて職員の手料理で提供し、何よりも喜ばれ元気の源になっています。利用者の笑顔を引き出しながら穏やかに皆で楽しく暮らせるように努力を続けている事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成29年12月15日	評価結果決定日	平成 年 月 日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、厨房に掲示しており毎朝朝礼で唱和している。ケア会議等でも職員全員で唱和し、実践に繋げている。	一人ひとりのペースに合わせて、穏やかに日々を過ごせるよう心掛けている。ホールでのレクリエーション等では利用者と職員が共に笑いあって楽しく過ごすなど理念の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と共に近くの公園に出掛けたり、地域を散歩する機会を作っている。	町内会に加入し回覧板で地域の情報を得、さんゆう夏祭りなどの事業所情報の発信を行っている。隣家からは庭で咲いた花の差し入れなどもあるが地域との関わりが希薄となっている。	地域密着型サービスの意義を再確認し、理念にも掲げている地域の一員として活動や行事、また日々の近所づきあいを通して事業所と利用者が孤立することなく、交流を持たれるよう期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方に日常的に挨拶を行い、日常会話の中で質問があれば認知症についてお話させて頂いている。運営推進会議においても、折に触れて認知症のお話をさせて頂き理解して頂けるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、現在の事業所の取り組みや状況を報告し、参加者に意見を頂きながらサービス向上に努めている。	市担当者・町内会長・民生委員等の参加を得て生活状況の報告と、認知症や感染症等時節に合わせたテーマで話し合っている。出席者からは外食に推薦する店や祭り等の情報が寄せられ取り組みに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、市担当者に出席頂き、ケアサービスの取り組みを伝えたり、分からないことを等のアドバイスを頂いている。	運営推進会議出席時に生活の様子を見てもらい、穏やかに生活している事を理解してもらっている。また介護相談員を受け入れ感想から利用者の思いを確認し職員の励みになっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	当初より玄関の鍵の施錠をしない取り組みをしてきた。現在は、防犯の為、夜8時に閉め朝8時には開けている。	法人内外の研修で身体拘束をしないケアや虐待防止について学び、対象となる言葉遣いにも職員同士で声を掛け合い意識している。車椅子は移動のみに使用し細やかに椅子への移乗を行い抑圧感のない暮らしを支えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて虐待について職員全員が学ぶ機会を設けている。入浴の際に必ずボディーチェックを行い、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修を受け、その制度を活用しようとしても、利用者からの理解が得られない事がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書を読み合わせ説明している。特に入所や退所する際の注意点やリスクについては、詳しく説明した上で同意して頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やイベント参加時に、意見、要望を聞ける機会を設けている。家族の参加は少ないが、参加して頂ける様声かけをしている。	面会や行事の折に努めて家族の意見や要望を聞く様になっている。家族からは「利用者同士が仲良く元気で過ごしてほしい」との声が聞かれ、職員は共有して要望に応えている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図り、毎月のケア会議では職員全員が発言出来るようにしている。又、発言した職員の意見、提案を話し合うようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は出来る限り職員とコミュニケーションを取り、意見を聞ける様になっている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修に職員全員参加する様になっている。機会があれば外部研修にも参加出来るように配慮している。	今年度虐待防止の外部研修に参加し、伝達研修を通して全員で共有している。また事故防止や認知症などについて内部研修を受け、日々のケアで実務を通してスキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に参加する機会を設け、他事業所の方との交流を図っている。参加によってサービスの質の向上に努めている。	市の会議で他事業所と顔を合わせる機会はあるが、職員の交流までには至っていない。職員は法人内委員会や研修で交流を図り学び合っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用をする前にご本人と面談し、要望や生活習慣を把握し不安などに対し十分話し合い、受け入れてもらえるように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にご家族様の要望や不安などを聞き、思いに添ったサービスや対応が出来るように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、実情など、今のような支援が必要なのか、職員で話し合い見極めてサービスに繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物干しや、たたみ方、掃除等、ご本人が出来る事や以前から行っていた事をご家族から話を聞きながら行っている。お互いに感謝の言葉が出てくるような環境作りを心掛けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは、一緒にお茶を飲んで頂き、他利用者様とも会話をして頂いている。行事に参加して頂き、進んでお手伝いしてをいて下さり職員も支えて頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	軽度の方には、行きたい所や思い出の場所等をお聞きしながら出掛けられるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に楽しく過ごせるようにレクを行っている。職員同士での情報の共有や、利用者様同士の中に入り一緒に会話をし関係性の強化に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方やご家族にもいつでも立ち寄って頂けるように声掛けをしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添う時間を大切にしている。利用者様とのコミュニケーションの中で、表情言葉をよく観察しケア会議等で把握出来るように努めている。	就寝前の居室などで1対1になった時に周りに気兼ねなく、本音を話してもらえる様に努めている。聞き出した話はケア会議で共有し、意見を出し合い意向に沿えるように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の際プライバシーに配慮した生活歴等をお聞きしている。入居後は関わりの中でご本人やご家族様にお聞きしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活で利用者様一人ひとりの心身状態を観察している。本人の出来る力を引き出せるように心掛けている。職員全員が共有出来るようにケア会議で話合っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で御利用者様の生活状態、健康状態、精神面について話し合っている。ご家族様、ご本人、主治医の意見を取り入れて、計画作成を行っている。	本人の希望を最優先に家族の要望も取り入れ、全職員の意見を反映して計画の作成や見直しをしている。主に現状維持を目指しているが、退院後機能低下した利用者にはトイレでの排泄を目標にした結果、座位を保てるようになるなどレベルアップの例もある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に常時話し合いながら、ケア会議にて気づき、工夫等を共有し、統一したケアが出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加している。散歩に出掛ける際に気軽に声を掛けて頂けるような環境作りに努めている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医には月2回の往診に来て頂いている。利用者様について気付いた事や、変化があれば電話相談をし情報を共有している。	月二回定期的に事業所協力医の往診があり、他に月一回家族等が依頼した医師の往診を受けている。医師への情報は当日にバイタル等をファックスで送り適切な受診が受けられるよう支援している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置がない為、利用者様について、気付いた事や変化があれば、かかりつけ医に相談しアドバイスを受けている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いに伺い、退院に向けての面談、退院後の留意点等を詳しく説明を受けるようにしている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、事業所側で対応できるケアを入所時にご家族様に説明している。	入居時に、重度化しても往診医の協力と職員の介助で、出来るケアの範囲と看取りはしていない事を伝え理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けており、急変対応マニュアルなども活用している。社内研修においても研修課題となっており、全職員が受ける体制になっている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、御利用者様にも参加して頂いている。誘導、消化器の使用方法避難経路など、全職員で確認している。終了後、防災業者の方に講評を頂いている。	年二回の訓練は、消防や防災業者の協力を得て、想定を変えながら行っている。消火器の扱い方や避難経路の確認、また招集訓練を行い、職員がそろそろまでの時間を見るなどして、職員への防災に対する意識付けもしている。	近隣の協力を得る事が難しいようではあるが運営推進会議等で説明し、協力を要請するなどの検討をしてみる事を期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報の保護に努めている。日々の関わりの中でのご利用者様の誇りやプライバシーを傷つけないように、言葉使い、態度には十分気をつけている。接遇研修等を受けている。	利用者のプライドを傷つけないよう言葉遣いには気を付け、職員同士気付いた時は注意しあっている。接遇については会議のたびに話し合い、二ヶ月の期間を設け目標を立て、達成に向かって進み利用者の人格尊重に繋げている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択枠を提案し自己決定出来るように心掛けている。意思表示が出来ない方であっても、表情、全身の反応を確認し、本人を把握する努力をしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安としての流れはあるが時間の区別はなく、ご利用者様のペースに合わせている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えをご利用者様に選んで頂いている。外出時は特に希望をお聞きしながら、おしゃれを楽しんで頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に何が食べたいか聞きながら栄養バランスを考慮し、提供している。季節の食材も取り入れている。職員も共に同じテーブルを囲み一緒に食事を楽しんでいる。	職員が週二回買い出しに行き、その時々合わせた食材を仕入れ、献立は当番職員が材料を見て考えて作り提供している。利用者代表の「いただきます。」の声で和やかな食事風景が繰り返されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌に水分接種量、食事量を記入して把握している。ご本人の嗜好や生活習慣、身体機能に合わせた飲み物を提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい歯磨きの声掛けをしている。一人ひとりの状態に合わせて口腔内洗浄・義歯洗浄のケアを行い清潔を保っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄のパターンを把握して声かけにて誘導している。排泄行為を活用し、下肢筋力強化ADLの向上に努めている。	利用者の半数が自立しているが、排泄パターンを利用して促したり、食事前には必ず声かけをしてトイレで排泄出来るよう支援している。夜間はポータブルトイレの利用もある。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬に頼らず繊維質の物をメニューに取り入れたり、毎朝手作りヨーグルトを提供している。水分を取り毎朝ラジオ体操、リハビリ体操を行い体を動かして頂いている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の目安で入浴を行っている。ご本人の希望に合わせてゆっくり入浴して頂ける様に時間や順番に配慮している。	浴室や脱衣室を十分に暖め、温度差を少なくして入浴してもらっている。湯船が深いので手を貸しながら1対1の介助をし、目を離さず話をしながら洗いを手伝っている。	車椅子利用者はシャワー対応になっているが、湯船につかり心身共にゆったりとくつろぎながら温まれるような方を講じることを期待したい。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの表情や体調に考慮しながら、午睡の声掛けを行っている。午睡されない方は、ホールにて職員と過ごして頂く等、個人に合わせて対応している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明書を活用している。職員全員で確認・理解し、症状の変化の確認に努めている。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野、好きな事を尊重し、役割を見つけ力を発揮できるようにな支援をしている。また、感謝の言葉や労いの気持ちを伝えている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2回、車で外出、外食を行い気分転換や季節を感じて頂いている。近くの公園への散歩や地域の行事にも積極的に参加し、外出の機会を作っている。	すぐ近くの公園まで散歩し、暖かい日差しを浴びながら少しの時間を過ごす他、月二回の皆での外出日は季節を肌で感じる事が出来楽しみにしている。個別支援はしていないが、お盆は家族対応で外出してもらっている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の支払いの際には預かり金を渡し、出来るだけ本人に支払って頂く様に支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話は使用出来るようにしている。希望があれば、いつでも対応できる状態になっている。手紙のやり取りを行っている方は現在いないが、希望があれば、対応出来る。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには皆様に楽しんだ、思い出の写真を掲示している。また、皆様が行った塗り絵や季節の壁飾りも、掲示している。イベント時はホールを飾りつけし、季節を感じて頂いている。	ほとんど一日中過ごすホールには、行事の時の写真やお楽しみの時間に作ったおりがみ飾りやぬりえなど季節がわかるような飾りつけをしている。昼食後はゲーム等をして時間を過ごしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関と廊下に椅子を置いている。気の合う方と雑談したり、お一人でゆっくり過ごせるスペースを確保している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所頂く際、居室には今まで使用してきた馴染みの物や思い出のあるものを、持ってきて頂くようお話している。ご本人にとって落ち着いて過ごせる居室になる様、ご家族様と相談し協力を得ている。	居室は馴染みの物を持って来て、自分らしくつろげる部屋作りをしている。週二回職員が掃除を行い利用者と一緒に整理整頓をして、居心地良く毎日を過ごしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・廊下・浴室に手すりを設置し、安全確保と自立への配慮をしている。居室内の動線の確保に対応出来るよう、整理整頓を行っている。			